

### 〈出席停止期間 一覧表〉

感染症の種類	疾患名	出席停止期間	
第一種	(※ <sup>1</sup> )	治癒するまで	
第二種	インフルエンザ (H5N1 を除く)	発症した後 5 日を経過し、かつ解熱した後 2 日を経過するまで	
	新型コロナウイルス感染症 (ベータコロナウイルス属のコロナウイルスであるものに限る)	発症後 5 日を経過し、かつ、症状が軽快した後 1 日を経過するまで	
	百日咳	特有の咳が消失するまで、又は 5 日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで	
	麻疹 (はしか)	解熱した後 3 日を経過するまで	
	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後 5 日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで	
	風しん (三日ばしか)	発しんが消失するまで	
	水痘 (みずぼうそう)	すべての発しんが痂皮化するまで	
	咽頭結膜熱	主要症状が消退した後 2 日を経過するまで	
	結核 髄膜炎菌性髄膜炎	症状により学校医、その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで 医師により感染の恐れがないと認めるまで	
第三種	(※ <sup>2</sup> )	症状により学校医、その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
	その他の感染症	溶連菌感染症	適正な抗菌剤治療開始後 24 時間を経て全身状態が良ければ登校可能
		ウイルス性肝炎	A 型・E 型：医師の許可があり、全身状態が良ければ登校可能 B 型・C 型：出席停止不要
		伝染性紅斑 (リンゴ病)	発疹 (リンゴ病) のみで全身状態が良ければ登校可能
		手足口病	発熱期や口内痛のため摂食できない期間は出席停止、全身状態が良ければ登校可能
		ヘルパンギーナ	発熱期や口内痛のため摂食できない期間は出席停止、全身状態が良ければ登校可能
		感染性胃腸炎	下痢・嘔吐症状が軽快し、全身状態が良ければ登校可能
		マイコプラズマ感染症	急性期は出席停止、全身状態が良ければ登校可能
		<b>RSウイルス</b>	<b>発熱、咳等の症状が安定し、全身状態が良ければ登校可能</b>
		アタマジラミ	出席可能 (タオル、櫛、ブラシの共用は避ける)
		伝染性軟属腫 (水いぼ)	出席可能 (多発発疹者はプールでのビート板の共用は避ける)
		伝染性膿痂疹 (とびひ)	出席可能 (プール、入浴は避ける)

※<sup>1</sup>第一種学校感染症：エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群 (SARS)、中東呼吸器症候群 (MARS)、特定鳥インフルエンザ (H5N1)

※<sup>2</sup>第三種学校感染症：コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜 (はやり目)、急性出血性結膜炎 (アポロ病)